

# 石井芙桑雄教授 略歴・業績目録

## <略 歴>

1945年10月29日	群馬県に生まれる
1964年4月	上智大学文学部独文科入学
1968年3月	上智大学文学部独文科卒業
1969年4月	早稲田大学大学院文学研究科ドイツ語・ドイツ文学専修修士課程入学
1971年3月	早稲田大学大学院文学研究科ドイツ語・ドイツ文学専修修士課程修了
1972年4月	早稲田大学大学院文学研究科ドイツ語・ドイツ文学専修博士課程入学
1975年3月	早稲田大学大学院文学研究科ドイツ語・ドイツ文学専修博士課程単位取得退学
1975年4月	立命館大学文学部助教授
1977年4月～1978年3月	文学部学生主事
1980年4月～1981年3月	文学部学生主事
1991年4月	立命館大学文学部教授
1991年4月～1992年3月	文学部学部主事
1993年4月～1994年3月	外国語教育センター副所長
1994年4月～1997年3月	国際センター所長
1997年4月～1998年3月	外国語教務主任
1998年4月～2000年3月	言語教育・研究センター長
2000年4月～2001年3月	文学部外国語パート主任
2003年4月～2004年3月	大学協議員
2004年4月～2006年3月	文学部調査委員長
2006年4月～2007年3月	文学部テーマリサーチ型ゼミナール担当主任
2009年4月～2010年3月	文学部言語文化パート主任
2010年6月5日	逝去

## <教育実績>

1971年4月～1975年3月	駒澤大学
1972年4月～1975年3月	東京理科大学
1973年4月～1975年3月	法政大学
1976年4月～1992年3月	京都大学教養部
1984年4月～1992年3月	同志社大学

2001年4月～2006年3月 京都大学総合人間学部

### <学会及び社会における活動等>

日本独文学会・京都独文学会・ドイツ文化社会史学会（2000年まで）・der Mitglied der Georg Büchner Gesellschaft・日本ゲオルク・ビューヒナー協会

### <業績目録>

#### 【論文】

- 「>文学者<ゲオルク・ビューヒナーの成立—Lenzにおける Lebensbegriffをめぐって」1971年12月『早稲田大学文学研究科紀要』、第17号
- 「歴史のアナロジイについて—Gaston Salvatore: Dantons Todをめぐって—」1977年4/5月『立命館文学』第382・383号
- 「戦中・戦後をつなぐもの—吉野源三郎の同時代史的認識をめぐって—」〔講座・現代日本社会の構造変化、第6巻、『戦後価値の再検討』所収、188～209ページ〕1986年9月 有斐閣
- 「限られた現実を生き書くこと—ドイツロマン派から>若いドイツ<への文学史的展開の一局面—」〔西川・松宮・末川編『ロマン主義の比較研究』所収、162～199ページ〕1989年5月 有斐閣
- 「ゲオルク・フォスターにおける<世論>の発見—フランス革命とドイツ啓蒙主義の文学—」1990年3月『立命館・言語文化研究』1巻2号
- 「ゲオルク・ビューヒナー『レンツ』のために—文学と文学者の初源をめぐる考察—(1)」1990年12月『立命館文学』第519号
- 「久米邦武の文明観から見たプロイセン」〔西川長夫・松宮秀治編『「米欧回覧実記」を読む—1870年代の世界と日本』所収、131～162ページ〕1995年3月 法律文化社
- 「ゲオルク・ビューヒナーの『レンツ』のために—文学と文学者の初源をめぐる考察—(2)」2001年2月『立命館文学』第567号〔佐々木康之教授退職記念論集〕
- 「ゲオルク・ビューヒナーの『レンツ』のために—文学と文学者の初源をめぐる考察—(3)」2002年2月『立命館文学』第573号〔神保菘教授退職記念論集〕

#### 【翻訳】

- レオ・コフラー『抽象芸術と不条理文学—美学ノート—』1980年8月 法政大学出版局
- ハインツ・ディーター・キットシュタイナー『「歴史哲学テーゼ」のために』1984年5月 好村富士彦編『ベンヤミンの肖像』所収 西田書店
- ハンス・マイアー「現代におけるゲオルク・ビューヒナー」1991年12月『手帖のはしに・中村秀雄先生追悼論集』所収 「中村秀雄先生追悼論集」刊行会

**【学会発表】**

躰きの意思としての> Pöbel <、ロマン派から若いドイツへ 1987年11月12日 ドイツ文化社  
会史学会第15回例会、シンポジウム「ドイツにおける近代化の Problematik」